



原作者 Marcus Hamilton 氏から本書へのプレゼント画（2018年9月）



原作者 Ron Ferdinand 氏から本書へのプレゼント画 (2018年9月)

PROLOGUE はじめに

暗記じゅぼくの呪縛じゅばくからの解放

味もそっけもない堅苦しい文を読み、羅列られつされている単語や文法をひたすら頭に詰め込んでいく、という英語学習法から抜け出せない人が多数見られます。テスト対策に追われ、常に暗記に縛られた状態では、英語を楽しめるどころの話ではありません。

かのアインシュタインは、“Love is a better teacher than duty.”という名句を残しました。日本の諺ことわざでは、ズバリ「好きこそ物の上手なれ」に当たります。どうしたら、暗記じゅぼくの呪縛を解き放ち、英語の学びそのものに喜びや楽しみを感じていけるでしょうか。

日本人は世界でもまれに見るほどに暗記好きな国民です。与えられるものをそのまま覚えこむ能力の高さが日本人の知性を支えてきたと言っても過言ではありません。

問題は暗記した知識をいかに使いこなすかにあります。言葉、とりわけ英語を使いこなす段になると、暗記能力の限界がたちまち露呈してしまうのが日本人の泣き所です。

本書は、前作『デニス英語の魅力ー血の通った英語を読み解く』（2015年）に引き続き、「Dennis the Menace（デニス・ザ・メナス）」というアメリカの一コマ漫画を素材に、このジレンマを突き破る道を提案します。

Dennis the Menace の衝撃

デニス作品は、アメリカで 1951 年に誕生し、今日もお世界各国で連載が続く長寿漫画です。類まれな腕白ぶりたくいと型破りな発話力で周囲をかき乱す永遠の 5 歳児デニスがその主人公です。

私がデニス作品に出合ったのは 1990 年代はじめ、アメリカの大学院に留学して間もない頃のことでした。当時購読していたワシントンポスト紙に Dennis the Menace が連載中でした。

作品に描かれるのは、日常生活のごく普通のワンシーンです。生き生きとしたセリフが各シーンに乗っかり、「なーるほど！」と納得できるストーリーが展開します。

たった一コマの中で、生きた英語・文化の奥深さ・ネイティブの発想をほぼ一瞬にして学べる効率の良さに驚き、これまでの英語学習の固定観念くつがえが覆されるような衝撃を覚えたものです。

脳が喜ぶ学習法

日本に帰国後、長年にわたり、勤務大学の授業で受講生にデニス作品を紹介してきました。そして、受講生がこぞってデニス英語の魅力にハマっていく様子をこの目でしかと見届けてきました。

はじめのうち、彼らは「訳せるのに意味が分からない」というとまどいの反応を見せますが、知らず知らずのうちに、ストーリーの謎解きの楽しさに引き込まれていきます。

学期末のレポートには、「初めて英語が面白いと思った。もっと読みたい！」「子供ってこんなふうを感じるんだ！」「本物英語に直訳は通じない！」「こんな勉強の仕方があったんだ！」等の、みずみずしい感想が異口同音に発せられます。

本書の副題は「さらば！お勉強英語」です。覚えなきゃ、という

苦しいお勉強英語でなく、脳が喜ぶ学習法を導入して、暗記一辺倒の学習法からの解放^{うなが}を促します。

生活感あふれるリアルな英語

本書は、Dennisシリーズ第2弾【アメリカ日常生活編】として、12の生活場面を軸とする作品構成に仕立てました。

食事、テレビ、学校、お仕置き、お祈り、教会等、日米間で共通する場面もあれば、違いの大きい場面もあります。場面ごとのストーリーを読みこなすことで、文化に根差した生活感あふれるリアルな英語がズシリと身近に迫ってきます。

英語力レベルを問わず誰でも楽しめるのがデニス英語の魅力です。テストの点数のことはひとまず忘れ、デニスのストレートなメッセージをあなたの心全体で受け止めてみてください。

デニスの天真爛漫^{らんまん}な子供らしさ、人前を意識しない奔放^{ほんぽう}さ、自由闊達^{かつたつ}な言葉づかいが、あなたの英語観を一変させるかもしれません。

本書は、勤務大学の同僚Simon Elderton（サイモン・エルダトン）氏と連携することで完成に至りました。

当然ながら、テストで高得点を取ることだけが外国語学習の目的ではありません。私たちは、異文化間のdialogue（対話）とcooperation（協働）を通して、自分の視野を広げ、新たな自分らしさを築いていくことこそが外国語学習の要であると考えます。一人でも多くの読者に私たちのこの思いが伝わることを願っています。

心ときめく Dennis World によろこそ！

CONTENTS

□ PROLOGUE	はじめに	5
------------	------	---

COLUMN ①

How to Read a Single-panel Cartoon

一コマ漫画の読み解き方	10
-------------	----

CHAPTER I : Where Naughtiness Ends Up 腕白^{あげく}の拳句

1	DENNIS MITCHELL デニス・ミッチェル Holy Terror 天性のやんちゃ	14
2	TIME-OUT お仕置き Excuses that Sound Smart 賢そうな言い訳	20
3	THE WILSONS ウィルソン家 Fated to Be Neighbors 妙につながる隣人	26
4	PRAYER お祈り Calculated Confession お調子者の懺悔 ^{ざんげ}	32

COLUMN ②

Dennis' 65th Anniversary Celebrated

65周年記念作が映し出すデニス史	38
------------------	----

CHAPTER II : Daily Household Hurricane 日常を襲う突風

1	MEALS 食事 Extreme Likes and Dislikes ママ泣かせの好き嫌い	42
2	TV テレビ Unbeatable Entertainment 譲れない娯楽	48

- 3** BATH お風呂
Indifference to Getting Clean 清潔には我関せず……………54
- 4** BEDTIME STORY 読み聞かせ
Brain Still Active at Bedtime 就寝前も冴える脳……………60
- COLUMN ③** Benefits of the Internet Age
インターネット時代の恩恵……………66

CHAPTER III : Ambassador of Mischief やんちゃ外交の波紋

- 1** SCHOOL 学校
Wise or Weird とんち 頓智か頓珍漢か……………70
- 2** CHURCH 教会
No More Long Sermons 長説教はご免……………76
- 3** STORES お店
Bargaining Behind the Scenes 買い物裏の駆け引き……………82
- 4** DOCTOR お医者さん
Amazing Resilience 抜群の回復力……………88
- COLUMN ④** Japanese Pioneers Who Introduced Dennis to Us
デニス作品を紹介した日本人先達……………94

CHAPTER IV : FINAL CHALLENGE 作品読解に自力で挑戦

- COLUMN ⑤** How Dennis Came to Japan 60 Years Ago
60年前に遡るデニスの日本上陸……………112
- EPILOGUE おわりに……………114

COLUMN ①

How to Read a Single-panel Cartoon

一コマ漫画の読み解き方

「一コマ漫画」(single-panel cartoon) であることが Dennis 作品の大きな特徴です。日本では、四コマ漫画はよく見かけますが、一コマ漫画を目にすることはまれです。新聞等に社会風刺漫画が掲載される程度でしょうか。

アメリカでは、一コマ漫画がおなじみのスタイルとして日常に溶け込んでいます。私がアメリカに滞在していた頃は、Gary Larson による The Far Side (1980-1995) という一コマ漫画が人気で、作品を丸ごとプリントしたTシャツやマグカップがよく売れていました。



"I'M SUPPOSED TO WRITE A POEM ABOUT MYSELF... YOU KNOW WHAT RHYMES WITH DENNIS?"

(June 18, 2015)

一コマ漫画にいきなり向き合うことに戸惑いを覚える読者も少なくないと思います。本編に入る前に、読み解き方のコツを少々説明しておきます。

一コマ漫画は、一場面の絵、そして登場人物が発する短いセリフから成り立つものが主流です。通例、どの作品にも工夫された筋立ての中にオチ (gag) が潜んでいます。読者は絵とセ

リフを頼りにストーリーのオチを楽しみます。まずは左の作品を見て、オチがつかめるか、しばし考えてみてください。

この場面では、“I’m supposed to write a poem about myself ... You know what rhymes with DENNIS?”（「ボク、自分のことを詩に書かなきゃならないんだけど、デニスとハモる言葉って何かある？」）と、パパ、ママに真剣に尋ねるデニスがあります。

Dennis the Menaceのタイトルが示すように、両親が思い浮かべているのは“menace”（^{メナス} ^{きょうい}脅威）という語であると思われます。珍しく宿題にやる気を持って取り組んでいる本人を前にズバリ答えることもできず、両親は困惑の表情を浮かべています。

一枚の絵と短いセリフというシンプルな組み合わせでありながら、このようにクスリと笑えるヒネリが潜んでいるところに作品のツボがあると言えます。

ストーリーの解釈は読者の想像力に委ねられます。多様な解釈が作品鑑賞にダイナミズムを与え、面白みを倍加させます。

本書では、各作品ページの【訳】や【解説】にできるだけ頼らずに、まずはあなたの知性と感性をフル活用して自分なりの自由な解釈に挑んでください。

自分の解釈を探る楽しさ、ピタッと読み解けた時の嬉しさ、新解釈がひらめいた時の誇らしさが存分に味わえる“win-win-win”学習が展開することでしょう。

各作品には英語による【Question】を設けました。「正解か不正解か」の意識を取り払い、積極的に英語を「使う」機会に生かしてください。

CHAPTER I

Where Naughtiness Ends Up

あげく 腕白の挙句

1 DENNIS MITCHELL



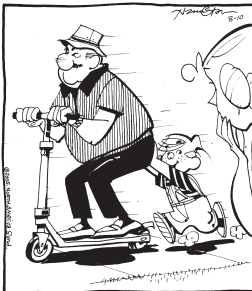
"BUT I LIKE LEAVING EVERYTHING OUT IN THE OPEN...IT SHOWS THAT I HAVE NOTHING TO HIDE."

2 TIME-OUT



"BUT ISN'T A HALF-TRUTH BETTER THAN NO TRUTH AT ALL?"

3 THE WILSONS



"I'M TEACHIN' MR. WILSON HOW TO HAVE FUN AGAIN."

4 PRAYER



"YOU'D BE SURPRISED HOW EASY IT IS TO BE NAUGHTY DOWN HERE."

1

DENNIS MITCHELL デニス・ミッチェル

Holy Terror 天性のやんちゃ

永遠の5歳児デニスは、ヘンリー（Henry）をパパとし、アリス（Alice）をママとするミッチェル家（the Mitchells）の一人っ子（an only child）です。以下は、Dennis the Menace公式ウェブページのCAST紹介（<http://dennisthem menace.com/cast-and-crew/>）デニス編からの抜粋です。

デニスは、“active, agile, tireless, and hard to catch”（活発ですばしっこく、疲れ知らずで逃げ上手）です。また、“inquisitive, imaginative, and of an experimental turn of mind”（好奇心、想像力にあふれ、なんでもやってみよう精神が旺盛）です。“never malicious or mean”（悪意はなく、意地悪くもない）ですが、“property”（お値打ちもの）や“quiet afternoon”（のどかな午後のひととき）を脅威にさらし続けます。



かくして、あちらこちらで物を壊してはママに怒られるシーンがデニス作品の定番の一つです。部屋の散らかりようも半端でなく、何度ママに叱られても新たな言い訳で対抗します。

「どうにも手に負えぬ子ども」を表すのに holy terror という表現があります。holy は「聖なる」、terror はここでは、「恐るべき子」という意味です。言わば「天性のやんちゃ」です。

I didn't do it, Dad ... honest.
I just bumped into the table
an' the lamp did the rest all by itself.



"I DIDN'T DO IT, DAD... HONEST. I JUST BUMPED INTO THE TABLE AN' THE LAMP DID THE REST ALL BY ITSELF."

(Oct. 1, 2007)

【訳】 ボクのせいじゃない、パパ…ホントだよ。ボクはただテーブルにぶつかっただけで、あとは電気スタンドが勝手にこうなったのさ。

【解説】 電気スタンドには触れていないので、電気スタンドの落下は自分の責任ではないという言い分です。偶然の出来事とするにはいささか強引すぎ、誰からの理解も得られそうにありません。

【Words】 bump into ... …にぶつかる an' = and lamp 電気スタンド
the rest 残り all by itself ひとりでに (allは強調)

【Memo】 たまたま by accident [chance] わざと on purpose

【Question】 How do you think the lamp got broken here?

Well, at least you're gettin' your money's worth
out of that dustpan.



"WELL, AT LEAST YOU'RE GETTIN' YOUR
MONEY'S WORTH OUT OF THAT DUSTPAN!"

(Nov. 19, 2016)

【訳】 まあ、そのちり取り代のもとぐらいは取れてるよね。

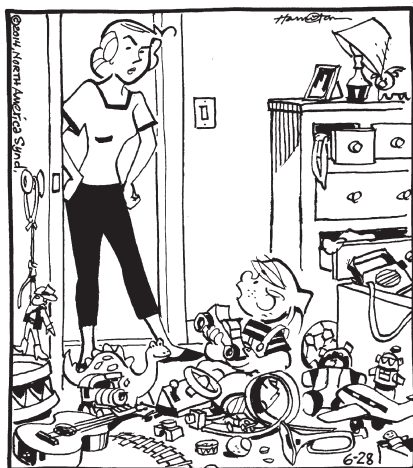
【解説】 花瓶を割ってしまったデニスは平然とこのセリフを言い放ちました。なるほど、ちり取りの活躍の場ではありますが、花瓶代の元が取れるはずはなく、ママの機嫌は収まりようがありません。

【Words】 at least 少なくとも you're = you are gettin' = getting
get one's money's worth 元を取る out of ... …から dustpan ちり取り

【Memo】 dustpan の pan は「片手用の平鍋」を意味する語。frying pan (フライパン) の pan のイメージと重なる。

【Question】 *If you were Alice, what would you say to Dennis?*

**Every toy is here for a reason.
If ya got some time, I'll explain each one to ya.**



"EVERY TOY IS HERE FOR A REASON. IF YA GOT SOME TIME, I'LL EXPLAIN EACH ONE TO YA."

(June 28, 2014)

【訳】 どのおもちゃもみんなわけがあってここにあるんだ。もし時間があるんなら、一つ一つ説明するよ。

【解説】 一つ一つのおもちゃの置き方にちゃんと意味があり、片付ける必要はないという言い分です。散らかっているようにしか見えませんが、デニスにとってはこれが「^{せいとん}整頓」なのかもしれません。

【Words】 for a reason わけがあって explain 説明する ya (you が速く発音された音を文字化した表記) each one = each reason

【Memo】 散らかる be untidy / be messy 片づける clean (up) / tidy / straighten / put ... in order

【Question】 Do you think Dennis is being serious here, or is he just making an excuse? Why do you think so?

I spent **FOUR HOURS** assembling this for Dennis.
It took him **FOUR MINUTES** to disassemble it!

(パパのセリフ)



"I SPENT **FOUR HOURS** ASSEMBLING THIS FOR DENNIS. IT TOOK HIM **FOUR MINUTES** TO DISASSEMBLE IT!"

(Dec. 27, 2006)

【訳】 4時間かけて作ってあげたのに、デニスときたら、たった4分でバラバラにしちまったよ！

【解説】 プラモデルを作るにはかなりの時間と根気が必要です。デニスを喜ばせようと丹精込めて作り上げたパパですが、ものの数分で台無しにされてしまいました。表情には^{きよだつ}虚脱感がにじみます。

【Words】 spend four hours V-ing Vするのに4時間を費やす assemble (= put together) 組み立てる It takes him four minutes to V 彼がVするのに4分かかる disassemble (= take apart) 分解する

【Memo】 こわす break 修理する repair / fix

【Question】 If you were Alice, what would be your reaction to Henry?

2

TIME-OUT お仕置き

Excuses that Sound Smart 賢そうな言い訳

デニスが部屋の隅っこで、何やら浮かぬ表情で椅子に座っているシーンがあります。日本人には理解しがたいのですが、デニスがお仕置きを受けているところです。time-out（タイムアウト）と呼ばれ、アメリカの家庭では一般的なお仕置きです。

time-outは、スポーツ（バレーボールなど）の場合、休息や協議のための「短い中断」という意味で使われます。元来はtime-out chair（反省椅子）に座ることで、頭を冷やす時間を確保する目的が含まれています。



time-outがお仕置きとして機能するのは、自由を尊重するアメリカ人の価値観に深く根ざしています。隅っこに、しかも壁に向かって座らされているところに注目してください。アメリカ人は「自由の剥奪^{はくだつ}」に大きな抵抗と苦痛を感じます。学年がもう少し上になると、今度は「外出禁止」のお仕置きが待っています。

日本人の場合はどうでしょうか。最も恐れるのは「集団からの疎外」です。「出てけ！」や「うちの子じゃありません」が強烈な脅^{おど}し文句になります。昔で言えば、押し入れに閉じ込められたりしたのもこの類でしょう。

「出るな！」がアメリカで「出てけ！」が日本。真逆の方向に働くのは興味深い違いです。



How come I'M the only one who gets punished around here?



"HOW COME I'M THE ONLY ONE WHO GETS
PUNISHED AROUND HERE?"

(Apr. 12, 2000)

【訳】 何でここん家では、ボクだけがお仕置きを受けるの？

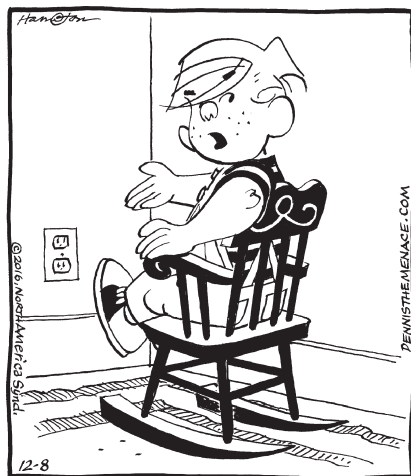
【解説】 パパ、ママにとっていささか耳の痛い質問です。デニスの直球に返す言葉もなく、二人とも知らんぷりを決め込んでいます。大人もお仕置きに値する不始末は山ほどやらかしているはず。

【Words】 How come S + V? 何でSはVするか？ get punished 罰せられる

【Memo】 around here は、「この家では (in our home)」を暗に意味している。／叱る：scold (大人が子供を) / tell ... off (大人を) / reprimand (上司が部下を)

【Question】 Why do you think Henry and Alice are trying to ignore Dennis' question?

But rules shouldn't be so EASY TO BREAK!



"BUT RULES SHOULDN'T BE
SO EASY TO BREAK!"

(Dec. 8, 2016)

【訳】 だって、そんな簡単に破られるルールがあるほうがおかしいよ！

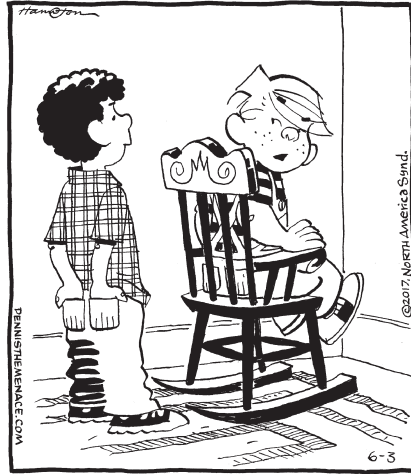
【解説】 デニスにしてみれば普通にふるまったままで、ルールを破ったという感覚はつゆほどもありません。いけないのは自分でなく、むやみやたらに人に罰を与えるルールのほうだという言い分です。

.....
【Words】 shouldn't be ... …であるべきでない break (ルールなどを) 破る

【Memo】 規則に従う obey [follow] a rule 規則を破る break [violate] a rule

【Question】 Give a few examples of rules that you think are "so easy to break."

**This is where you end up
when you run out of good excuses.**



“THIS IS WHERE YOU END UP WHEN YOU
RUN OUT OF GOOD EXCUSES.”

(June 3, 2017)

【訳】 ちゃんとした言い訳がなくなると、ここに来ちゃうのさ。

【解説】 逆に言えば、ちゃんとした言い訳があれば、ここに来なくてもすむというデニスの発想です。反省するよりも先に罰の逃れ方を考えてしまうデニスのちゃっかりぶりが表れています。

【Words】 This is where S + V ここがSがVするところ

end up (…に) 終わる run out of ... …が尽きる excuse(s) 言い訳

【Memo】 文中の you は総称の you で「人は(誰も)」を意味する。／

「お金[時間]が無くなってきた。」 I am running out of money [time].

【Question】 What is the best excuse you have ever heard?

But isn't a HALF-TRUTH better
than NO truth at all?



"BUT ISN'T A HALF-TRUTH BETTER THAN
NO TRUTH AT ALL?"

(Aug. 14, 2009)

【訳】 だって半分は本当なんだから、全部ウソよりいいんじゃない？

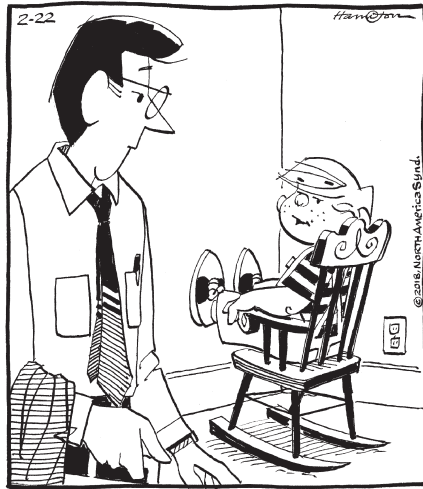
【解説】 デニスにとって、半分本当のことを言うのはいつも以上の良心が必要でした。そこを大目に見てほしい、というデニスの言い分です。ウソは割合の問題ではないですね。

【Words】 Isn't X better than Y? XはYよりましでは？ no truth at all 全く真実がないこと

【Memo】 post-truth (「ポスト真実」) が2016年の流行語大賞 (Oxford English Dictionary 選出)、fake news (「偽ニュース」) が2017年の流行語大賞 (American Dialect Society 選出)。現代社会において truth 自体の意味が変化しつつある。

【Question】 When do you think it can be OK not to tell the truth?

I took the CHAIR over the LECTURE.



“I TOOK THE CHAIR OVER THE LECTURE.” (Feb. 22, 2018)

【訳】 お説教をくらう前に、ボク、椅子のほうを選んだのさ。

【解説】 ママのお説教に反撃できないと観念したデニスは、自己主張をあきらめ、ちゃっかり「反省椅子」に先回りしました。どこことなく表情に安堵感あんどが漂っています。

.....
 【Words】 take X over Y YよりもXを優先する lecture お説教

【Memo】 富より健康を重視する take health over wealth / value health above wealth / put health before wealth

【Question】 Why do you think Dennis “took the chair over the lecture”?

3

THE WILSONS ウィルソン家

Fated to Be Neighbors 妙につながる隣人

ウィルソン家はミッチェル家に隣り合っています。ご主人ウィルソンさん (Mr. Wilson / George) は長年の公務員勤務を終え、奥さん (Mrs. Wilson / Martha) と二人で退職後の生活 (life after retirement) に入っています。子供はいません。

両家の絶妙なコンビネーションが、デニスとウィルソンさんの間に妙な絆を育みます。

一人っ子で^{しじゅう}始終暇を持て余しているデニスは、四六時中ウィルソン家に入り浸り、どちらの家の子か分からないほどに隣家と密着した時間を過ごします。奥さんが作る超一級のクッキーの味も隣家への誘発剤 (temptation) です。



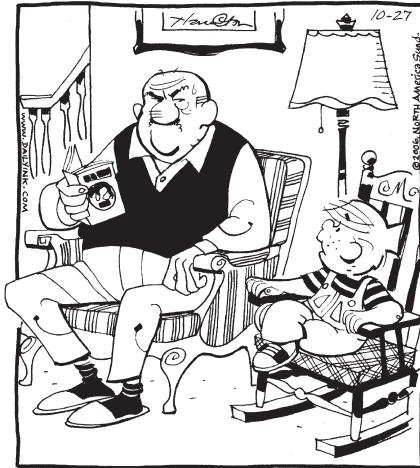
ウィルソンさんとは「ウマが合う」(a good match) と一方的に信じ込むデニスは、次々と腕白技をしかけ、ウィルソンさんの心をかきむしります。



ウィルソンさんが夢見ていた退職後ののどかな暮らしは、隣家のやんちゃ坊主の登場により粉々に吹き飛んだかのようなようです。

想定外の出来事、それが人生の隠し味 (spice of life) です。

**Me an' you have a lot in common, Mr. Wilson.
I don't have a job, an' you don't either.**



"ME AN' YOU HAVE A LOT IN COMMON, MR. WILSON.
I DON'T HAVE A JOB, AN' YOU DON'T EITHER."

(Oct. 27, 2006)

【訳】 ウィルソンさん、ボくらって似てるとこいっぱいあるよね。
ボクは仕事をしてないし、おじさんもだね。

【解説】 お互い「仕事をしてない」とはいえ、長年社会に尽くしてきたウィルソンさんの誇りをデニスが理解するのはしよせん無理と
言うべきでしょう。

【Words】 an' = and have a lot in common 共通点がたくさんある You
don't either = You don't (have a job) either あなたも（仕事）ない

【Memo】 似たところがない have nothing in common どこか似たところ
がある have something in common

【Question】 Why do you think Mr. Wilson looks irritated?

**That had to be Dennis.
No burglar would make that much noise.**

(Mr. Wilsonのセリフ)



“THAT HAD TO BE DENNIS. NO BURGLAR
WOULD MAKE THAT MUCH NOISE.”

(Dec. 14, 2017)

【訳】 きっとあれはデニスだ。泥棒ならあんなでかい物音を立てないだろうよ。

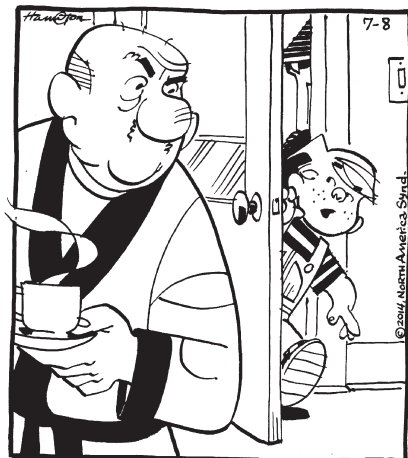
【解説】 ウィルソンさんの経験に基づく推測です。夜中の物音の連想が「泥棒」でなく隣家の「デニス」に直結してしまうところに、ウィルソン家の困惑がにじみます。

.....
【Words】 had to have to (～に違いない) の過去形 burglar 泥棒
make that much noise あんなに大きな音を立てる

【Memo】 泥棒 : thief (こそ泥) / robber (強盗) / burglar (押し込み強盗)

【Question】 *What do you think Dennis might have been doing to “make that much noise”?*

There was a 'Keep Out' sign on the front door,
so I came through the back to see what's goin' on.



“THERE WAS A ‘KEEP OUT’ SIGN ON THE FRONT DOOR, SO I CAME THROUGH THE BACK TO SEE WHAT’S GOIN’ ON!”

(July 8, 2014)

【訳】 玄関に「立入禁止」の札があったから、どうなってるのかと思って裏口から入ってきたんだ。

【解説】 デニスをシャットアウトするためにかけた札でしたが、効果はマイナス。ウィルソンさんは、くつろぎのひと時を奪われてしまいました。

.....
【Words】 'Keep Out' sign 「立入禁止」の札 the front door 玄関ドア
the back (door) 裏口、勝手口 goin' = going go on = happen

【Memo】 「立入禁止」 Keep Out / Off Limits / No Entry / Keep Off

【Question】 Why do you think Mr. Wilson looks startled?

**While Mr. Wilson is on his diet,
I'll be happy to take over his cookie-eating.**



"WHILE MR. WILSON IS ON HIS DIET, I'LL BE
HAPPY TO TAKE OVER HIS COOKIE-EATING."

(June 11, 2010)

【訳】 ウィルソンさんがダイエットしている間、おじさんのクッキー食べるのはボクが代わってあげるよ。

【解説】 ウィルソン夫人のクッキーに惚れ込んでいるデニスは、ウィルソンさんがダイエット中と聞き、すかさず夫人と掛け合ってます。デニスの魂胆こんたんが見透かされているのは言うまでもありません。

【Words】 While S + V S が V している間 be on his diet ダイエット中で
will be happy to V 喜んで V する take over ... …を引き継ぐ

【Memo】 ダイエットする go on a diet ダイエットをやめる go off one's diet

【Question】 If you were Mrs. Wilson, would you accept Dennis' proposal? Why or why not?

I'm teachin' Mr. Wilson how to have fun again.



“I’M TEACHIN’ MR. WILSON HOW TO HAVE FUN AGAIN.” (Aug. 10, 2005)

【訳】 ウィルソンさんにどうやって楽しみを取り戻せるか、ボクが教えてあげてるんだ。

【解説】 デニスは、自分が楽しめることは他の誰もが楽しいはずと勝手に思い込み、ウィルソンさんにおせっかいを焼いています。ありがた迷惑もいいところです。

【Words】 teachin' = teaching teach him how to V 彼にVする仕方を教える have fun 楽しむ

【Memo】 作品中の乗り物は **kickboard** (キックボード)、または **kick scooter** (キックスクーター) と呼ばれる。 **roller skates** (ローラースケート) や **skate board** (スケートボード) よりも簡単に習得でき、自転車代わりとして役立つ。

【Question】 *Do you think Dennis is really trying to help Mr. Wilson to have fun? Why or why not?*

4

PRAYER お祈り

Calculated Confession お調子者の懺悔^{ざんげ}

「お仕置き」同様、「お祈り」もまた、日米文化の違いが色濃くに
じみ出る習慣です。

日本では、幼児の頃まで家族と添い寝するのが主流です。親の
間に子供が入るので「川の字」文化とも言われます。アメリカで
は、生まれてすぐの赤ちゃんが自分の部屋 (bedroom) を与えられ、
親と離れてベビーベッドで寝るのがごく普通の習慣です。

独立心 (independent spirit) を育む文化の根底にあるのがキリ
スト教文化 (Christian culture) です。子供は子供なりに神様との
対話に臨みます。親の目をごまかせたとしても神様の前でウソは通
用しません。

腕白なデニスも Almighty God (全能の神様) への畏怖^{いふ} (awe)
は人一倍持ち合わせているので、就寝前に祈らずにはいられないの
です。

デニスの場合、「こんなことをしてしま
いました。お許してください」という懺悔^{ざんげ}
(confession) スタイルが大半です。神様
との対話の中でもお調子者ぶりがにじみ出
ています。

神様との本音トークを幼いうちから積み
重ねるアメリカ人が言論に強くなるのも分
かる気がします。

